

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

守れ伝統！はばたけ鵜飼！水辺が活きる地域づくりプロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

犬山市

### 3 地域再生計画の区域

犬山市の区域の一部（犬山地区及び栗栖地区）

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

犬山市は愛知県の北端にあり、岐阜県との境には一級河川木曾川が流れる自然豊かなまちである。犬山に暮らす人々は、古くから利水や漁など、川の恵みを生活に活かしてきた。伝統漁法「木曾川うかい」は1,300年の歴史を持つが、鵜舟（鵜匠の乗る船）や観覧船（観客の乗る船）の船頭が平均67歳と高齢化し、後継者の発掘と育成が急務である。それに伴い、鵜舟の操船事業、鵜飼を間近に見学できる「観覧船事業」、春・秋の行楽シーズンに川を遊覧する「遊覧船事業」を運営する木曾川観光（株）は、事業縮小により経営が不安定となり、また河畔にある老舗旅館も集客の減少により休業するなど、夜の賑わい喪失にもつながっている。このままでは、市の誇りでもあり観光資源の生命線ともいえる「木曾川うかい」を失う可能性があり、観光都市である本市にとって大きな痛手となる。伝統漁法、貴重な観光資源、そして市民の誇りである「木曾川うかい」存続のため、同社の経営安定と船頭育成は猶予を待たない喫緊の課題である。

あわせて、本市には「夜に遊べる場所」がないことから、休日でも16時以降になると滞在人口が少なくなり、いわゆる「日帰り観光地」と化している。「夜に外へ出かけられる場所」を作り、滞在時間の延伸により、宿泊客に結び付けることが必要である。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

国宝犬山城の麓、犬山地区で行われる1,300年もの長い歴史を持つ伝統漁法「木曾川うかい」に必要な鵜舟や観覧船の船頭の技術を、若者が習得し事業の後継者となることで、伝統漁法の存続・継承を図る。また、外国人に全く無名の「木曾川うかい」を世界に向けて発信することにより、インバウンド需要の取込みを進める。

川沿いの空間が、「夜も出かけられる場所」となり、夜鶺飼と併せて「犬山の夜の名所」をつくりだし、河畔の旅館への宿泊客の増加を目指す。

**【数値目標】**

	事業開始前 (現時点)	2017年度 増加分 (1年目)	2018年度 増加分 (2年目)	2019年度 増加分 (3年目)
木曾川うかい乗船者数(人)	23,442人	23,500人	23,500人	23,500人
見習い船頭の乗船回数(回)	450回	225回	225回	225回
一人前の船頭となり就労している若手船頭の数(人)	0人	0人	0人	0人
木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)	79,176,100円	79,500,000円	79,500,000円	79,500,000円

	2020年度 増加分 (4年目)	2021年度 増加分 (5年目)	KPI 増加分の累計
木曾川うかい乗船者数(人)	25,300人	26,900人	122,700人
見習い船頭の乗船回数(回)	336回	336回	1,347回
一人前の船頭となり就労している若手船頭の数(人)	3人	3人	6人
木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)	84,720,000円	88,850,000円	412,070,000円

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

1300年の歴史を持つ伝統漁法「木曾川うかい」の存続と次代への継承のため、若き船頭を育成する。船頭の育成に伴い木曾川観光(株)の事業拡大を目指す。あわせて鵜飼事業の海外向けPRを強化し、インバウンド需要の取込みを図る。並行して、河川空間に「夜出かけられる場所」を作り、観光客の滞在時間の延伸と宿泊客の増加につなげる。また、川沿いの小集落「栗栖地区」では、地域の自立・自走を目指した魅力発信に取り組む。「鵜飼事業」、「河川空間の賑わい創出」「栗栖地区の魅力発信」をあわせ、河川空間全体の活性化を目指す。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）【A3007】

#### ① 事業主体

犬山市

#### ② 事業の名称：守れ伝統！はばたけ鵜飼！水辺が活きる地域づくりプロジェクト

#### ③ 事業の内容

伝統漁法を守る若き船頭を育成するため、木曾川観光(株)のベテラン船頭が指導員となり、舟の舵をとる責任者「とも乗り」候補生を育成する。また、すでに市内若手農業者団体「犬山農芸」が、「昼は農家」「夜は船頭」として活躍しており、その若手船頭が先輩指導員として、若手見習い船頭をとも乗りの助手「なか乗り」として育成する。

あわせて、市観光協会と連携し、日本の伝統漁法である「木曾川うかい」の魅力を強力にPRし、外国人観光客を積極誘致。将来的には、若手船頭が、増加する外国人観光客へのおもてなし対応力を高め、インバウンド需要の取込みを図る。

並行して、河川空間の有効な活用方法の検討を行い、川沿いの風合いを活かし、夜の賑わいを創出するための事業をモデル的に実施する。たとえば、初期段階はキッチンカーなどを並べた「ナイトバザール」など、「夜に出かけられる場所」を作り、犬山市の新しい名所を目指す。地元の若者がスモールビジネスとしてチャレンジできるような仕組みを構築する。

河川沿いの小集落「栗栖地区」においては、住民が主体となって地域

の自立・自走を目指した地域の魅力発信のための取組みを進める。具体的には、「栗栖まち歩き」「ママさんマップ」「本物のキノコづくり」など、2016年度にお試しイベントとして実施した事業を発展的に展開する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

犬山農芸の若者が一人前の船頭として育成されることにより、「鵜舟の出船事業」を新たな業務として請け負うことができ、今後は犬山農芸内で若手船頭を確保していくサイクルが生まれる。

また、木曾川観光(株)は、「鵜舟の出船事業」が犬山農芸に移管することにより、「観覧船事業」のための船頭確保に専念できるようになる。観覧船の出船数を増やすことにより、観覧者の受入れ数が増加し、増収につなげる。加えて、鵜飼事業や遊覧船事業など操船事業全体の拡充も可能となり、事業収入の増加が見込める。

なお、一人前の船頭となるのが交付金期間の3年目(2019年度)であるため、実際に増船に着手できるのは4年目以降となる。

ナイトバザールにおいては、地元の若者がスモールビジネスとしてチャレンジする場所として、事業収入を得ながら、起業の一步へとつなげる。

【官民協働】

鵜飼事業のうち、観覧船の操船事業は木曾川観光(株)、鵜舟の操船事業は犬山農芸、伝統漁法の保存・継承は行政(鵜匠)として今後安定的に担っていく体制を整えるために、若手船頭の育成を行う。

また、行政は夜の鵜飼と川沿いの風合いを活かした「夜に出かけられる場所」をつくるため、法規制の整理やインフラの整備を実施し、「ナイトバザール」などが実施できる体制を整える。

【政策間連携】

若き船頭見習いを一人前の船頭に育成することにより、犬山の誇る伝統文化の継承・保全だけでなく、観光事業の拡充や、若者の雇用創出、新たな生活スタイルの提供による移住・定住を実現する。

川沿いに賑わいを誘導するための事業を実施することにより、若者の新たな雇用の創出、観光客の滞在時間の増加、宿泊客の増加など、商業の活性化につなげる。

【地域間連携】

鵜飼を実施する各務原市あるいは伝統文化を重要な観光資源として

活用する「昇竜道プロジェクト」関係自治体との連携

【その他の先導性】

特になし

⑤ 重要業績評価指標 (KPI) 及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	2017年度 増加分 (1年目)	2018年度 増加分 (2年目)	2019年度 増加分 (3年目)
木曾川うかい乗船者数(人)	23,442人	23,500人	23,500人	23,500人
見習い船頭の乗船回数(回)	450回	225回	225回	225回
一人前の船頭となり就労している若手船頭の数(人)	0人	0人	0人	0人
木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)	79,176,100円	79,500,000円	79,500,000円	79,500,000円

	2020年度 増加分 (4年目)	2021年度 増加分 (5年目)	KPI 増加分の累計
木曾川うかい乗船者数(人)	25,300人	26,900人	122,700人
見習い船頭の乗船回数(回)	336回	336回	1,347回
一人前の船頭となり就労している若手船頭の数(人)	3人	3人	6人
木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)	84,720,000円	88,850,000円	412,070,000円

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

総合戦略策定に際して設置した「いいね！犬山総合戦略推進会議の委員（学識経験者、関係団体の職員、住民代表等）及び市の最上位計画である犬山市総合計画の審議会委員を中心とした外部組織が、KPI の達成状況をもとに、PDCA サイクルに基づく効果検証を行う。

【外部組織の参画者】

いいね！いぬやま総合戦略推進会議委員（愛知大学教授 鈴木誠ほか）や犬山市総合計画審議会委員などで組織する予定。

【検証結果の公表の方法】

検証結果は、市公式ホームページにより公表を行う。

⑦ 交付対象事業に要する経費

総事業費 37,401 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から 2020 年 3 月 31 日（3 ヶ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### （1）栗栖地区の魅力発信事業

事業概要：河川沿いの小集落「栗栖地区」において、住民が主体となって地域の自立・自走を目指した地域の魅力発信のための取組みを進める。具体的には、「栗栖まち歩き」「ママさんマップ」「本物のキノコづくり」など、H28 年度にお試しイベントとして実施した事業を発展的に展開する。

実施主体：犬山市、栗栖地区住民

事業期間：2017 年度～2021 年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から 2022 年 3 月 31 日

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

#### 【検証方法】

総合戦略策定に際して設置した「いいね！犬山総合戦略推進会議の委員（学識経験者、関係団体の職員、住民代表等）及び市の最上位計画である犬山市総合計画の審議会委員を中心とした外部組織が、KPI の達成状況をもとに、PDCA サイクルに基づく効果検証を行う。

#### 【外部組織の参画者】

いいね！いぬやま総合戦略推進会議委員（愛知大学教授 鈴木誠ほか）や犬山市総合計画審議会委員などで組織する予定。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	2017 年度 増加分 (1 年目)	2018 年度 増加分 (2 年目)	2019 年度 増加分 (3 年目)
木曾川うかい乗船者数 (人)	23,442 人	23,500 人	23,500 人	23,500 人
見習い船頭の乗船回数 (回)	450 回	225 回	225 回	225 回
一人前の船頭となり就労している若手船頭の数 (人)	0 人	0 人	0 人	0 人
木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)	79,176,100 円	79,500,000 円	79,500,000 円	79,500,000 円

	2020年度 増加分 (4年目)	2021年度 増加分 (5年目)	KPI 増加分の累計
木曾川うかい乗船者数(人)	25,300人	26,900人	122,700人
見習い船頭の乗船回数(回)	336回	336回	1,347回
一人前の船頭となり就労している若手船頭の数(人)	3人	3人	6人
木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)	84,720,000円	88,850,000円	412,070,000円

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

検証結果は、市公式ホームページにより公表を行う。